「お盆」を心豊かに過ごす

今月は「お盆」の時期です。帰省されるご家族もいらっしゃることでしょう。

お盆はインドの仏教と中国の信仰の合体したものが日本に渡り定着したものです。仏教の経典に『盂蘭盆経』というのがあり、「お盆」の起源であるとされています。お釈迦さまの弟子、目連尊者は神通第一と言われており、ある時、亡き母がどうしているか透視すると、餓鬼の世界に落ちていました。亡き母を救いたいという目連尊者の言葉に釈尊は「今は雨期の時期で、お前の仲間の聖たちも建物の中で勉強する夏安居の最中である。その夏安居の最終日、七月十五日に皆を接待して、供養しなさい。そうすれば、その功徳で母は救われるであろう」とおっしゃったのです。そして、毎年七月十五日にこの供養を行うよう勧められました。このお経が日本に伝わり、旧暦の七月十五日に先祖をお迎えして供養するお盆の行事が定着しました。一方中国では、亡くなった人が年二回、正月と中元(七月十五日)に帰ってくるという信仰があります。このインドの仏教と中国の信仰が合体したのが日本のお盆の由来であると言われています。本来なら七月十五日がお盆ですが、近年、日本全体では旧暦ではなく、一ヶ月遅れの新暦の八月に行われることが多いようです。それは、明治時代に旧暦から新暦に変更になったとき、従来通り旧暦の七月に行った地域と、新暦の八月に変更した地域があるからです。農作業の繁忙期である七月を避けて、新暦の八月に変更した地域が、全国に多くなったことが考えられます。このように、お盆の日程に関わる日本人の考え方は、じつに臨機応変です。しかし、こうしたおおらかさは素晴らしい一面だと思います。

テレビの報道や新聞を見ても、「亡き方はお盆の時期だけ帰ってくる」と言われることが多いようです。しかし、浄土真宗は亡き方はお盆の間だけこの世に帰ってこられるわけではなく、いつでもどこでも帰ってきて下さっています。お盆に普段はなかなか会えない帰省されたご家族やご親族の皆さんで、亡き方を偲びつつ、仏縁に遇えた喜びを再確認する【仏縁週間】として過ごしていただきたいものです。

皆様もどうぞ心豊かにお盆や法事をお過ごし下さい。